

平成27（2015）年度入学者

専門教育科目

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	医学概論		科目ナンバリング	HOAB23015	
担当者氏名	長尾 光城、伊藤 純、兒玉 拓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）			

《授業の概要》

医学は基礎医学、社会医学、臨床医学に大別される。本講義では基礎医学的にはスポーツに関する解剖生理、社会医学ではスポーツを通じて、予防医学と公衆衛生学を理解する。臨床医学では整形外科と内科学の両面からスポーツを考える。

《テキスト》

随時、プリントを配布する。

《参考図書》

新版スポーツ整形外科学 監修 中嶋寛之、編集 福林 徹・史野根生（南江堂） 2011

《授業の到達目標》

代表的なスポーツ傷害（外傷・障害）、メディカルチェックについて学ぶ。生活習慣病の予防の理解を深める。スポーツが関わる呼吸循環器と腎泌尿器を通して、疾患の理解を深める。

《授業時間外学習》

今回の授業範囲を予習し、専門用語の意味をノートに整理しておくこと

《成績評価の方法》

筆記試験60%、出席20%、レポート20%  
わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

スポーツと医学を中心に学んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	スポーツ医学総論	メディカルチェックについて理解する。
2	メディカルチェックの応用	メディカルチェックの測定項目を通じてスポーツ傷害を考える。
3	スポーツ傷害	代表的なスポーツ外傷・障害について理解する。
4	循環器総論	循環器の解剖生理について理解する
5	スポーツと循環器	スポーツが循環器に及ぼす影響について理解を深める。
6	呼吸器総論	呼吸器の解剖生理について理解する。
7	スポーツと呼吸器	スポーツが呼吸器に及ぼす影響について理解を深める。
8	血液の見方 (1)	基本的な血液データの見方を理解する。
9	腎泌尿器総論	腎泌尿器の解剖生理について理解する
10	スポーツと腎泌尿器	スポーツが腎泌尿器に及ぼす影響について理解を深める。
11	血液の見方 (2)	腎泌尿器についての血液データの見方を理解する。
12	メタボリックシンドロームについて	メタボリックシンドロームについて理解する。
13	スポーツと生活習慣病	生活習慣病予防のためのスポーツのあり方を学ぶ。
14	ロコモティブシンドロームについて	ロコモティブシンドロームについて理解し、予防方法を考える。
15	スポーツマッサージ	回復力を高めるためのマッサージ方法を学ぶ。

科目名	生活習慣病(成人病)		科目ナンバリング	H0DB23016	
担当者氏名	兒玉 拓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する(知識・理解) ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する(情報収集力) ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく(知識の統合) ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う(応用力)			

《授業の概要》

過食や運動不足など不健康な生活習慣によりメタボリック症候群が発症する。メタボリック症候群には高血圧・脂質異常症・糖尿病・肥満等の治療が重要である。本講義では、現時点で明らかであるメタボリック症候群の発生機序を学習するとともに適切な栄養管理や運動指導の実際を理解して疾患発生予防に必要な知識を獲得することを目的とする。

《テキスト》

なし。講義時に資料を配布する。

《参考図書》

『健康運動指導士養成講習会テキスト上・下』(財団法人 健康・体力づくり事業団)

《授業の到達目標》

- 近年のメタボリック症候群発症増加について社会的背景について説明できる
- メタボリック症候群の診断基準や発症機序を説明できる
- メタボリック症候群の予防や治療としての栄養管理・運動指導が適切に実践できる

《授業時間外学習》

講義の進行に応じて実施する課題に真剣に取り組み、重要事項の把握と理解に努めること。必要に応じてグループによる課題作成等の学習を加える予定である。

《成績評価の方法》

定期試験70%、平常評価30%(授業における質問への対応、課題への取り組み)なお講義中の受講姿勢に問題がある学生は必要に応じて減点される。講義の理解を確認するため、数回のレポートを作成する。

《備考》

課題の提出は期限を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生活習慣病概論	我が国の高齢化の進行に伴い急速に生活習慣病が増加している。本講義では生活習慣病の歴史的な変遷から生活習慣病の予防等について概説する。
2	肥満症	肥満症の診断基準を学ぶと同時に肥満症発症メカニズムについて理解する。肥満症の予防や治療方法について正しい知識を習得する。
3	高血圧症(1)	血圧の維持に必要な心・血管機能について基本的な知識を習得する。合わせて異常血圧発症メカニズム等について理解する。
4	高血圧症(2)	高血圧の診断基準と高血圧治療としての運動療法・食事療法・薬物療法について理解する。
5	糖尿病(1)	糖尿病の発症機序と分類、診断基準および糖尿病の合併症について理解する。
6	糖尿病(2)	糖尿病の治療方針、食事療法・運動療法・薬物療法について理解する。
7	脂質異常症	血中脂質の成分、リポ蛋白の機能およびその破綻について理解するとともに脂質異常症のコントロールとしての運動療法・食事療法・薬物療法を概説する。
8	メタボリック症候群	血圧、血中脂質、血糖および腹周によるメタボリック症候群の診断基準を理解し、発症予防のための知識を習得する。
9	虚血性心疾患(1)	動脈硬化の発生機序と心臓における虚血病態の進展メカニズムを理解する。
10	虚血性心疾患(2)	種々の動脈硬化性心疾患の症状、および適切な運動リハビリテーションの方法について理解する。
11	脳卒中	種々の動脈硬化性脳疾患(脳出血・脳梗塞・脳血栓等)の症状、および適切なリハビリテーションの方法について理解する。
12	骨粗鬆症	正常の骨代謝についての知識を習得するとともに骨量低下による骨粗鬆症の発症機序について理解する。
13	高尿酸血症・痛風	基礎的な正常な尿酸を理解するとともに高尿酸血症の発症機序と進展、その予防と治療について学習する。
14	関節リウマチ	自己免疫性疾患である関節リウマチを中心に正常免疫反応とその異常について学習する。
15	まとめ	学習した内容を再確認する。

科目名	臨床心理学	科目ナンバリング	HOXB23018
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）		

《授業の概要》

臨床心理学とは人のこころを理解しようとし人にとっての意味を理解しようとする心理学である。こころの世界の開拓者フロイトは大人の患者との精神分析治療の中で、人のこころの発達における幼児期の重要性を発見した。この授業の中で「こころ」の研究の歴史を辿り人と人とは関わることによって育まれる「関係性」について知り、自分自身と他者のこころを理解できるよう学んでほしい。

《授業の到達目標》

- ・人の不安の源泉はどこにあるのかを知る
- ・対人関係上の問題を呈する人々を理解する上で、乳幼児と母親との関係性と関連させて、より適切な関わりが実践できるよう学ぶ。
- ・さまざまな人に対応できる福祉レクリエーションのエッセンスを身につけ、身体を動かす楽しさを指導できるよう学ぶ。

《成績評価の方法》

受講態度30%  
 レポート20%  
 筆記テスト50%  
 レポートは指定する日程で返却するので、必ず取りに来て下さい。

《テキスト》

「救う力」人のために自分のためにいまあなたができること  
 吉岡秀人（2014）廣済堂出版 本体1400円

《参考図書》

授業内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

テキストを読んで、最終授業日までにレポートを提出する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	臨床心理学の基本的な考え方を知る
2	フロイトの発見	無意識をめぐって、フロイトの発見から考える
3	フロイトの精神分析①	自由連想法について知る
4	フロイトの精神分析②	フロイトの理論を用いて学ぶ
5	ユングの分析心理学①	ユング自身の人生と分析心理学について知る
6	ユングの分析心理学①	ユングのタイプ論を知る
7	乳幼児期のこころの発達①	赤ちゃんの不安の源泉 メラニー・クラインの精神分析理論を知る
8	乳幼児期のこころの発達②	マーガレット・マラーの分離・個体化過程とウィニコットのホールディングについて学ぶ
9	遊戯療法	子どもの心理療法としての遊戯療法を知る
10	箱庭療法①	ユング心理学と箱庭療法の関連について知る
11	箱庭療法②	箱庭療法の実際を学ぶ
12	行動療法・認知行動療法	行動療法の理論と、考え方や思考のくせに気づき改善していくための認知行動療法を知る
13	ソーシャル・スキルトレーニングについて	児童・障害者を支援するためのSSTについて学ぶ
14	身体を動かすレクリエーションについて	遊戯療法の応用として、さまざまな人たちに活用できる福祉レクリエーションのエッセンスを学び活用できるよう学習する
15	臨床心理学の理解について	全体のふりかえりと確認を行う

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	教育特論Ⅱ		科目ナンバリング	HOCC23020	
担当者氏名	古田 薫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）			

《授業の概要》

特論Ⅰで考察したキャリアプランと課題意識に基づいて、就職活動や採用試験に向けた各自の目標と現状を明確にし、実践力を養う。筆記試験、小論文、グループディスカッション、グループワーク、面接（個人・集団）などの目的（企業や公共団体が採用試験に取り入れる理由など）や方法（最近の傾向など）について理解を深め、体験することによって、進路実現のために必要とされる力の習得を目指す。

《授業の到達目標》

- 自分の進路に対する具体的な目標と、その実現に向けての個人的課題を踏まえて、課題克服のための具体的な計画を立案し実行することができる。
- 課題に対して真摯に向き合い、解決までのプロセスを論理的に構築し、他者とのコミュニケーションを通じて課題を達成することができる。

《成績評価の方法》

ワークシートやレポート等の提出物（45%）  
 授業における活動状況（45%）  
 進路実現に向けた授業時間外の活動状況（10%）  
 ＊提出物はコメントをつけて返却する。授業中の活動については、各授業の最後に教員による総括と講評を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	就職活動を知る 学科の専門性と職業	就職活動にあたって：態度と心構え 学科の専門性と具体的な職業との関係について考える
2	就職のタイムスケジュール ①：適性試験	適性試験を受けて自己の適性を自己分析し、さまざまな職業との関係を考える
3	就職のタイムスケジュール ②	就職までのステップとタイムスケジュールの確認
4	就職のタイムスケジュール ③	各自の就職活動に向けて幅広い立場・観点から、具体例をみる （先輩の体験談、質疑応答など）
5	エントリーシートの書き 方①	自己PRと志望動機の書き方 自分を知る：自己分析をしてみよう、自己PRのネタを探そう
6	エントリーシートの書き 方②	自己PRと志望動機の書き方 実際に書いてみて、添削と相互評価を行う
7	筆記試験：SPI	SPIとは 模擬テストと結果の自己分析
8	個人面接①	面接（個人、グループ）のマナーとポイント 模擬面接（個人）
9	個人面接②	模擬面接（個人）と自己評価・相互評価
10	グループ面接①	模擬面接（グループ）（1）
11	グループ面接②	模擬面接（グループ）（2）と自己評価・相互評価
12	グループディスカッショ ン①	グループディスカッション理論編 グループディスカッションの基礎練習（1）
13	グループディスカッショ ン②	グループディスカッションの基礎練習（2） グループディスカッションの準備
14	グループディスカッショ ン③	グループディスカッションと自己評価・相互評価
15	学習のまとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、その具体的な成果を説明することができるようにする

《テキスト》

オムニバス形式の授業であるため、適宜プリントを配布する。

《参考図書》

《授業時間外学習》

あらかじめ、自分の進路に必要な学習内容を把握して、自主的に学習を進めておくこと。  
 課題克服のために必要な活動を積極的に進めておくこと。

《備考》

模擬面接（個人、集団）を実施する際は、スーツを着用すること。学習支援センターで授業を行う場合もあるので、連絡事項をよく確認すること。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	教育特論Ⅲ		科目ナンバリング	H0CC23021	
担当者氏名	木下 幸文、加藤 和代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる (情報発信力)</li> <li>○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく (知識の統合)</li> <li>◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する (総合的判断力・実践力)</li> <li>○ 3-2 効果的な意思疎通ができる (コミュニケーション力)</li> <li>○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる (リーダーシップ)</li> </ul>				

《授業の概要》

キャリアステップの最終段階として、学生はこれまでの学習内容を丁寧に見直すと共に、目標に沿って主体的に学習を進めることを求められる。Ⅲでは、教職課程を履修する学生のための教職専門や教科専門の学習に特化し、将来に生きる学修となるよう進めていく。授業は、専門性に応じて、全員あるいはグループに分かれ、学習内容に適した方法でおこなう。

《テキスト》

適宜プリントを配布する。

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介する。

《授業の到達目標》

- 実習校に即した指導案を作成し、また、その完成度を高める
- 教育観、教師観、教育課題などを自らのことばで説明できる
- 教採試験内容を理解し、正答率を上げる

《授業時間外学習》

自己の学習の進度に応じ、次年度に向けた学習を計画的に進める。学習の中心は、時間外学習(家庭学習)にある。

《成績評価の方法》

確認テスト(30%)、課題提出(20%)、最終試験[教採模試](50%)

確認テストは時間内に解答解説を行う。課題についてはコメントをつけて返却する。

《備考》

実習の期間及び教採試験日程の関係上、一部、土曜日開講を行う。本演習は教職を志望する学生のみ対象とした科目である。一部はアクティブラーニングゾーンで実施する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法についての説明、担当者の紹介、内容の確認
2	学習計画の作成 専門演習	教員採用試験の日程確認と各自の学習計画の作成 専門科目の試験対策演習
3	専門演習	専門演習と解説 (体育系は体育の指導案作成指導を受け、指導案を作成することができる) (養護系は保健指導案作成を受け、指導案を作成することができる)
4	エントリーシートの作成	エントリーシートの記入の添削を受け、エントリーシート作成の理解を深める
5	専門演習	専門演習と解説 (体育系は体育の指導案作成の課題発表し、理解を深める) (養護系は保健指導案提出)
6	確認テスト① 傾向と対策	確認テストの結果をもとに、対応策を練る
7	専門演習	専門演習と解説
8	専門演習	専門演習と解説
9	専門演習	専門演習と解説
10	県別一次試験対策	面接等の有無に伴う個別対応
11	確認とテスト② 弱点補強	確認テストの結果をもとに、弱点強化の対策を講じる
12	専門演習	専門演習と解説
13	専門演習	専門演習と解説
14	専門演習	専門演習と解説
15	授業のまとめ[模擬試験]	最終確認を行う

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	地域活動演習 I	科目ナンバリング	H0CC23022
担当者氏名	徳田 泰伸、河野 稔		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）		

《授業の概要》

地域社会における運動指導現場やボランティア現場等に参加し、実際の活動を通して、社会人としての行動を身につけ、指導者・教育者としての心構え、指導法、および、現場における課題等を体験的に学習する。実習先は、公共・民間のフィットネス施設、各種スポーツクラブおよびチーム、学校や教育施設、地方公共団体や非営利目的の諸団体等、その他、担当者が認めた施設・各種団体である。

《授業の到達目標》

- 地域の活動現場において、現場にいる人々と協力して行動できる。
- 大学での学修成果を、現場での指導や教育などの活動に生かせる。
- 現場での諸問題を理解し、その解決に向けて主体的に取り組める。

《成績評価の方法》

実習の記録（40%）、実習後の報告（40%）、平常点（20%）とする。  
 記録には評価コメントを付して個人に伝える。  
 報告はスピーチをして全員に伝えること。  
 またレポートには個人にコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の内容について話し合う。特に実習先の検討。学生の実習先の希望等について打ち合わせる
2	実習のシミュレーション(1)	実習先でのシミュレーションを行い、実習場面で発生する問題等について議論する：スポーツ組織の運営等
3	実習のシミュレーション(2)	各施設先（実習先）を想定し、2週目で発生した諸問題について検討し、指導力を養うための講義とするスポーツ組織の運営等
4	学外実習	実習先での授業（第1回目 挨拶、打ち合わせ、仕事の内容等について現場指導者との協議に入る）：スポーツ事業の計画、運営、実施等
5	学外実習	実習先での授業（第2回目 仕事の内容について具体的な指示を受ける）：スポーツ事業の計画、運営、実施等
6	学外実習	実習先での授業（第3回目 仕事の実践を通して客と対応していく）対応した内容について反省と明日への対応を検討する。広域スポーツセンターについて考える
7	学外実習	実習先での授業（第4回目 第3回目と同じく仕事の内容に対して反省と自分らしさの指導力を発揮していく）あわせて広域スポーツセンターの機能と役割についても学ぶ
8	学外実習	実習先での授業（第5回目 第4回目を内容をふまえ、自分の指導力への客の反応を反省し、明日への計画に生かしていく）地域におけるスポーツ振興について考える
9	学外実習	実習先での授業（第6回目 第5回目と同じく指導力を発揮し、その内容をふまえ、何が足りないか常に、との繋がりを重視する）地域におけるスポーツ振興について考える
10	学外実習	実習先での授業（第7回目 第6回目を内容をふまえ、実習後半の指導力を反省し、理論と実践を身につけていく）
11	学外実習	実習先での授業（第8回目 第7回目をふまえ、理論と実践が片寄りのない指導になっているかを検討する）
12	学外実習	実習先での授業（第9回目 第8回目をふまえ、各自の指導力が客に対して、評価がどのようなものかを確認する）
13	実習の反省	本学での授業の中で実習先での諸問題等について報告し反省会を開く
14	実習記録の作成	実習先での実習録を作成し、全員でまとめる（各施設ごと）
15	実習報告	各自の報告を発表形式で行う

《テキスト》

授業中に資料を配布する。

《参考図書》

ヘルス&フィットネス実務マニュアル「フィットネスクラブ内  
 ○秘実務業務の手引書」（現場マニュアル）

《授業時間外学習》

予習としては、配布資料をよく読み、実習に備えておくこと。  
 復習としては、実習中の記録を適宜まとめておくこと。

《備考》

原則として、実習先の施設・各種団体へは自らの意思で参加すること。また、実習までに、これまでに学習した専門教育科目の内容を十分に復習しておくこと。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ指導法		科目ナンバリング	H1DX23040
担当者氏名	矢野 琢也			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力）</li> <li>○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力）</li> <li>○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）</li> <li>○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）</li> <li>◎ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）</li> </ul>			

《授業の概要》

スポーツ指導者の役割は、「プレーヤー自信がなりたいと思う自分に近づくために、その活動をサポートすること」である（日本体育協会テキストより）。その上で、目的を達成するためにどのような手段や方法を用いるのか、安全性や指導者の倫理観など幅広い内容を学びながら指導者としての基礎を身につける。

《授業の到達目標》

以下のことができることを目標とする。1) 指導者としての役割、心得について説明ができる。2) 指導に必要な基本的理論の説明ができる。3) 基礎的な指導計画案が立てられる。

《成績評価の方法》

出席回数が授業回数2/3未満は評価対象外とする。期末の筆記試験70%、課題レポートなど30%。質問や評価等に関してはオフィスアワーで適宜対応する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価法、狙い、注意事項などの説明。
2	指導計画について-1	スポーツ指導における計画について、トレーニングの原理・原則の面からその重要性やその構成要素を学ぶ。
3	指導計画について-2	年間計画、学年等のカテゴリー毎の計画を中心に実際の指導計画について学び、立案、プレゼンテーションを行う。
4	スポーツ指導者について	スポーツ指導者の役割、心構え、視点、育成プログラムの理念などを学ぶ。
5	救急処置	スポーツ活動中に発生する怪我並びに救急処置法に関して復習も含めてその方法を学ぶ。
6	スポーツと人権、倫理観	スポーツ倫理と基本的人権について指導者の立場から学ぶ。
7	スポーツにおける動機付け	動機付けの役割や意味、構成要素等を学ぶ。
8	一貫指導システムについて	指導計画について。長期一貫指導システムに関してその内容と重要性を学ぶ。
9	一貫指導システムについて	指導計画について。国内外の長期一貫指導システムに関して事例報告から学びプレゼンテーションを行う。
10	コーチングの心理	指導における心理（個人、集団、性差、年齢など）の特徴について学ぶ。
11	対象に合わせた指導	女性とスポーツに関してその特性などを学ぶ。
12	対象に合わせた指導	ジュニア期における指導についてその特性などを学ぶ。
13	スキルの獲得と獲得過程	スキルの概念、構成要素、その獲得過程について学ぶ。
14	指導法の事例研究	指導法の事例から、これまで学んだ内容の確認等を行う。
15	指導法の事例研究とまとめ	指導法の事例から、これまで学んだ内容の確認等を行う。合わせて全体のまとめを行う。

《テキスト》

公認スポーツ指導者養成テキストⅠ、Ⅱ、Ⅲ（日本体育協会）

《参考図書》

「スポーツ・コーチング学」西倉書店、「スポーツコンディショニング」大修館書店、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「クリエイティブ・コーチング」大修館書店

《授業時間外学習》

テキストを各自購入の上で、実際に現場等でその内容の確認並びに実践を積極的に行ってください。積極的なディスカッションができるように事前に各自予習をした上で授業に出席すること。

《備考》

指導養成を目的としています。よって積極的な取り組みを期待します。授業に取り組む姿勢（時間厳守など）から指導者を目指す者としての資質を強く求めます。

科目名	スポーツ医学概論	科目ナンバリング	H1DX23008
担当者氏名	朽木 勤		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力）</li> <li>◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）</li> <li>○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）</li> <li>○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）</li> <li>○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）</li> </ul>		

《授業の概要》

これまでに習慣的な運動が生活習慣病の病態改善や心臓血管系疾患の発症リスクを軽減することが明らかにされている。運動指導に携わる者は対象者に運動を負荷したとき、どのようなメカニズムによってその効果が得られるのかという本質を理解しておかなければならない。本講義では生活習慣病に関連する医学的基礎知識から治療につながるような運動の効果について講述する。

《授業の到達目標》

生活習慣を改善することにより、疾病の発症や進行が予防できる疾患と定義されている生活習慣病は、「一次予防」すなわち健康を維持・促進して疾患の発症を予防することを目標としている。運動は疾患の発症を予防するだけでなく、生活習慣病に対する運動療法としても注目を集めている。本講義を通じて、主に生活習慣病に対する治療や予防に効果的な運動を類別できるようにする。

《成績評価の方法》

講義時間中に行う発表と討論、課題テストで評価を行う。具体的には、必要な資料作成（40%）、口頭発表（10%）、質疑（10%）、課題テスト（40%）を合わせて総合的に評価する。わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

「健康運動指導士養成講習会テキスト」健康体力づくり事業財団（社会保険研究所）2016年

《参考図書》

「健康づくりのための身体活動基準」（厚生労働省）、「健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）」（厚生労働省）、「運動処方の指針原書第8版」アメリカスポーツ医学会（南江堂）、「スポーツ医学研修ハンドブック 基礎科目」日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会（文光堂）

《授業時間外学習》

講義中に行う発表に関する資料について、専門用語や内容について学習しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康づくりにおける運動のあり方	疾病の治療、特に生活習慣病に対する運動の効果や在り方について理解する
2	健康づくりのための身体活動基準	健康づくりのための身体活動指針について（その目的や意義について）説明することができる
3	生活習慣病の運動療法(1)	虚血性心疾患、肥満に対する運動の効果について理解する
4	生活習慣病の運動療法(2)	糖尿病に対する運動の意義(1) 運動とインスリン感受性の関係について理解する
5	生活習慣病の運動療法(3)	糖尿病に対する運動の意義(2) 運動と糖輸送蛋白の関係について理解する
6	生活習慣病の運動療法(4)	高血圧症に対する運動の意義(1) 運動による昇圧と降圧の機序について理解する
7	生活習慣病の運動療法(5)	高血圧症に対する運動の意義(2) 運動処方として適している身体活動の種類について理解する
8	生活習慣病の運動療法(6)	脂質異常症に対する運動の意義(1) 運動と脂質代謝について理解する
9	生活習慣病の運動療法(7)	脂質異常症に対する運動の意義(2) 運動と脂質代謝の調節機構について理解する
10	生活習慣病の運動療法(8)	動脈硬化症に対する運動の意義(1) 運動とずり応力、一酸化窒素について理解する
11	生活習慣病の運動療法(9)	動脈硬化症に対する運動の意義(2) 有酸素運動とレジスタンス運動の差異について理解する
12	女性とスポーツ	競技スポーツや身体活動が生体に及ぼす影響について理解する
13	運動と免疫機能	運動と炎症反応、その防御機構について理解する
14	運動と活性酸素	運動による活性酸素の消去システム機構について理解する
15	総括（課題テスト）	これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、その具体的な成果を説明することが出来る

科目名	障害者スポーツ論		科目ナンバリング	H1DX23010	
担当者氏名	増田 和茂、樽本 つぐみ				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）			

《授業の概要》

スポーツは健常者だけが楽しみ豊かな生活と健康維持増進のために行うものではなく、障害がある者も同等に必要であり、権利として認められるものである。障害者が安心・安全にスポーツに取り組み、また、健康維持と社会参加への推進のために、障害を理解し、理論と実技の知識と実践指導力を身につける。

《テキスト》

障害者スポーツ指導教本（初級・中級）（株）ぎょうせい  
 全国障害者スポーツ大会競技規則集  
 （公財）日本障害者スポーツ協会

《参考図書》

アダプテッド・スポーツの科学ー障害者・高齢医者のスポーツ実践のための理論ー 市村出版  
 スポーツのリスクマネジメント：小笠原 正共著、ぎょうせい

《授業の到達目標》

1 スポーツの指導は年齢、性別、体力、技能と障害の有無など個々の対象に適応した運動の方法や運動量を指導することである。2 個人に応じた競技スポーツから健康維持増進のためのスポーツに対し、アダプテッドスポーツ（適応させる）の考知識、3 幼児から高齢者、そして障害者への創意工夫の理論と実技指導ができる指導者を養成する。

《授業時間外学習》

別日程で障害者スポーツセンターで車いすバスケットボールや視覚障害者の卓球などを体験学習（実技）する。

《成績評価の方法》

到達目標の1と2については試験、3については、レポート作成とする。配点は試験40点、レポート60点、100点満点とし、60点以上を合格とする。レポートにコメントを付して返却する。

《備考》

初級障がい者スポーツ指導員の資格認定科目である。本学体育館で実技を3回行う。体育館使用のため授業日が変更することもある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	障害者福祉施策と障害者スポーツ	障害者の福祉施策と障害者のスポーツの基本的な知識を学び、現状と課題に触れる。
2	ボランティア論	障害者のスポーツ推進には、ボランティアの支援は欠かせない人財であり、その具体的な事例を学ぶ。
3	障害者スポーツの意義と理念	障害者がスポーツを行うことの意味と心身及び社会的な効果、具体的な事例から実際に対応できる知識を学ぶ。
4	日本障害者スポーツ協会資格認定制度	障害者スポーツの制度とその役割を知り、資格取得後の活動行動へ運動させる知識と情報を得る。
5	障害の理解とスポーツ（身体障害）	身体障害（肢体不自由、視覚障害、聴覚言語障害、内部障害）の基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる。
6	障害者に応じたスポーツの工夫（身体障害）	身体障害（肢体不自由、視覚障害、聴覚言語障害、内部障害）のスポーツの基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる実技学習。
7	障害の理解の理解とスポーツ（知的障害）	知的障害の基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる。
8	障害者に応じたスポーツの工夫（知的障害）	知的障害のスポーツの基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる実技学習。
9	障害の理解の理解とスポーツ（精神障害）	精神障害の基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる。
10	障害者に応じたスポーツの工夫（精神障害）	精神障害のスポーツの基本的な知識を学び、指導、支援するために役立てる実技学習。
11	全国障害者スポーツ大会の概要	全国障害者スポーツ大会の概要、競技と種目、各競技規則を学び、予選ブロック大会やその選考大会となる各種大会を学ぶことで指導現場での情報を知る。
12	指導上の留意点と事例	障害、残存機能、性別、年齢、個人のスポーツ経験や目的に対応した指導上の留意点を学び事例報告から実践的な知識を身につける。
13	障害者との交流	障害のある方から具体的な生活、地域とのかかわりやスポーツに取り組むための現状と課題を聴き、社会や個人ができることを考究する。
14	安全管理と事例	スポーツの実施には、障害の有無に関わらず安全で効果的な運動が原則である。その中で障害者スポーツの事故事例などを学び、安全管理能力を習得する。
15	障害に応じた新たなスポーツの企画	障害者スポーツの指導や事業を計画するテーマから、プラン、実施、評価を踏まえてのシミュレーションをチームで企画する。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ科学 I	科目ナンバリング	H1DX23012
担当者氏名	矢野 琢也		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）		

《授業の概要》

トレーニング指導において、運動生理学、解剖学、トレーニング理論等の科学的な基礎知識無しでは効果的な結果は得られません。よって、これらの知識をもとに競技力向上を目的としたトレーニング方法について学びます。1~3年生までに学んだ基礎知識をもとにその応用です。数回のレポート課題による理解力、プレゼンテーション能力の習得も行います。

《授業の到達目標》

トレーニング指導者として必要な基礎知識の獲得を目標とします。また、「聞く、理解する、ポイントを見つける、まとめる、書く」といった作業を徹底して行い、指導者として必要な資質の習得も目標とします。

《成績評価の方法》

数回のレポート(50%)とテスト(50%)の結果のみで評価します。レポート等の提出物は期限厳守です。原則遅れは受理しません。不明な点等は、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「ストレングストレーニング&コンディショニング」ブックハウスHD、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「入門運動生理学第3版」杏林書院、「スポーツ医科学」杏林書院、「パワーアップの科学」朝倉書店、「臨床スポーツ医学」医学映像教育センター、「スポーツ・健康科学」放送大学、「エクササイズ科学」文光堂、「スポーツ生理学」化学同人

《授業時間外学習》

シラバスで授業内容を確認して予習をするように。また、各自が実際に運動やトレーニングを行い、理論の確認や疑問点の発見を行うことを強く希望します。少しでも多くの知識や技術が習得できるようにサポートしますので、積極的に参加してください。

《備考》

トレーニング指導者養成のための授業を行いますので、その強い意思のある者の履修を希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法等の説明をします。受講者は必ず出席すること。
2	トレーニングの原理原則	トレーニングの原理原則について学ぶ。
3	筋の構造とメカニズム	筋の構造とメカニズムについて学ぶ。
4	筋活動におけるエネルギー系や神経系	筋活動におけるエネルギー系や神経系のメカニズムについて学ぶ。
5	筋組成（遅筋）の特徴	筋組成（遅筋）の特徴とトレーニング効果について学ぶ。
6	筋組成（速筋）の特徴	筋組成（速筋）の特徴とトレーニング効果について学ぶ。
7	AT、LT、VT、OBLA	AT、LT、VT、OBLAについて理解する。
8	パワー	パワーに関する基礎知識および強化方法を習得する。
9	筋持久力	筋持久力に関する基礎知識および強化方法を習得する。
10	有酸素性持久力トレーニング	有酸素性持久力トレーニングに関する基礎知識および強化方法を習得する。
11	エネルギー補給と代謝	エネルギー補給と代謝に関する基礎知識および実践方法を習得する。
12	ジュニアアスリートにおけるトレーニング	ジュニアアスリートにおけるトレーニングについて障害防止の視点から学ぶ。
13	高齢者を対象としたトレーニング	高齢者を対象としたトレーニングとその効果について理解する。
14	ディ・トレーニング	ディ・トレーニングについて学ぶ。
15	まとめ	まとめ&トピックスを交えながら補足を行う。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ科学Ⅱ	科目ナンバリング	H1DX23013
担当者氏名	矢野 琢也		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）		

《授業の概要》

スポーツ科学Ⅰの応用編です。実技と講義を併用します。競技力向上を目的としたトレーニングの基本を学びます。実際にHRモニターで心拍数の計測や乳酸値の計測を行ったりしながら理論の確認を行います。トレーニング科学を実際に活用するために必要な知識や技術の獲得を狙います。

《授業の到達目標》

競技力向上を目的とした指導者養成を目標とし、トレーニングの基本的な理論の習得ならびにメニューの作成ができることを目指します。実際にHRモニターや乳酸測定機器等を用いて計測やデータの分析が行えることを目指します。

《成績評価の方法》

数回のレポート（50%）とテスト（50%）の結果のみで評価します。提出物の期限は厳守です。原則遅れは受け取りません。不明な点等はオフィスアワー等で質問を受け付けます。

《テキスト》

「スポーツ生理学」化学同人 ￥2,600+税

《参考図書》

「長距離選手の生理科学」杏林書院、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「入門運動生理学第3版」杏林書院、「中長距離ランナーの科学的トレーニング」大修館書店、「高所トレーニングの科学」杏林書院、「運動生理・生化学事典」大修館書店、「スポーツ医科学」杏林書院、「乳酸をどう活かすか」杏林書院、「持久力の科学」杏林書院

《授業時間外学習》

シラバスを確認の上で予習をすること。また、各自でHRモニターの使用方法の習得のための時間を確保するように（実際に走って記録を取るなど）。

《備考》

トレーニング指導者をを目指す学生の受講を求めます。少しでも多くの知識や技術が習得できるようにサポートしますので、積極的に参加してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開や評価方法等について説明します。受講者は必ず参加すること。
2	呼吸機能について	呼吸機能の特性について学ぶ
3	循環機能について	循環機能の特性について学ぶ
4	骨格筋について	骨格筋の特性について学ぶ
5	無酸素性、有酸素性能力について	無酸素性、有酸素性の能力の特性について学ぶ
6	内分泌系、血液成分について	内分泌系や血液成分の特性について学ぶ
7	水分補給、体温調整	体温調節機能と水分補給について学ぶ
8	身体組成について	身体組成の特徴について学ぶ
9	持久的トレーニング	トレーニングと効果について学ぶ
10	トレーニング計画	トレーニング計画の作成（ピリオダイゼーションを含む）
11	ウォーミングアップ&クーリングダウン	ウォーミングアップ&クーリングダウンの必要性や方法
12	エネルギー補給	競技力向上のためのエネルギー補給
13	障害について	アスリートを対象とした障害の発生とその原因、防止-1について学ぶ
14	障害について	アスリートを対象とした障害の発生とその原因、防止-2について学ぶ
15	まとめ	全体のまとめ&補足

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	体育実技指導法 I		科目ナンバリング	H1DX23056
担当者氏名	樽本 つぐみ			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力）</li> <li>○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）</li> <li>○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）</li> <li>○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）</li> </ul>			

《授業の概要》

運動実践を通して指導者としての指導能力を養うことを目標とする。1、2年次に履修した「スポーツ実践 I・II」「健康体力づくり実践 I・II」で学んだスポーツや学校体育における正しい実践方法を再確認すると共に指導方法を身につける。具体的には、学校体育における実施種目の実践を通して段階的な指導方法やその際の指示助言等を学ぶ。

《授業の到達目標》

授業計画に示す内容の学校体育種目を実施する。方法として、基本的に個人で各種目における指導計画を作成し実際に指導を経験する。さらに反省・評価を繰り返し行うことにより指導者としての資質を高める。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を経験する。さらに、学校施設内で実施不可能な種目（水泳等）については定期時間外に集中講義を実施する。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）随時課題に対するレポート（30%）と理解度を確認するテスト（20%）を行う。ノートおよびレポートはコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	スポーツ実践の方法と指導計画の立て方	指導実習（指導計画書の作成と実施）
3	スポーツ活動と安全管理	指導実習（指導計画書の作成と実施）
4	体づくり運動	体ほぐしの運動についての理解と指導法
5	体づくり運動	体力を高める運動についての理解と指導法
6	器械運動	マット運動における特性の理解と指導法（1）
7	器械運動	マット運動における特性の理解と指導法（2）
8	球技	テニス・バドミントンにおける特性・ルール理解と指導法：指導実習（指導計画書の作成と実施）
9	球技	サッカーにおける特性・ルール理解と指導法：指導実習（指導計画書の作成と実施）
10	陸上競技	短距離における種目特性の理解と指導法
11	陸上競技	リレーにおける種目特性の理解と指導法
12	陸上競技	走り幅跳びにおける種目特性の理解と指導法
13	ダンス	創作ダンスにおける特性の理解と指導法
14	ダンス	フォークダンスにおける特性の理解と指導法
15	まとめ	授業全体のまとめをする

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著（杏林書院）『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）『選手とコーチのトレーニングマニュアル』ブルーノ・ポーレット著『中学校学習指導要領解説（体育編）』（明治図書）

《授業時間外学習》

予習方法は、下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等で確認し、あらかじめ指導計画案を作成することによって指導方法に対してより理解が深まりかつ指導内容が広がる。復習方法は、学んだ内容を配付資料等により再確認しノートにまとめる。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	体育実技指導法Ⅱ		科目ナンバリング	H1DX23057
担当者氏名	樽本 つぐみ			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力）</li> <li>○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）</li> <li>○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）</li> <li>○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）</li> </ul>			

《授業の概要》

スポーツ指導法Ⅰと同様に主として運動実践を通して体育指導者としての指導能力を養うことを目標とする。その為に、学校体育における様々な種目の正しい実践方法を再確認すると共に指導方法を身につける。具体的には、学校体育における種目の実践を通して段階的な指導方法やその際の指示助言等を学ぶ。

《授業の到達目標》

授業計画に示す内容の学校体育種目を実施する。方法として、個人で各種目における指導計画を作成し指導を経験する。さらに反省・評価→指導を繰り返すことにより指導者としての資質を高める。実施種目は、個人・グループ毎に授業計画に示す全種目を経験する。さらに、学校施設内で実施不可能な種目（水泳等）については時間外に実施する。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノート提出する（50%）随時課題に対するレポート（30%）と理解度を確認するテスト（20%）を行う。ノートおよびレポートはコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	器械運動	跳び箱運動における特性の理解と指導法（1）
3	器械運動	跳び箱運動における特性の理解と指導法（2）
4	器械運動	鉄棒運動における特性の理解と指導法（1）
5	器械運動	鉄棒運動における特性の理解と指導法（2）
6	球技	バドミントンにおける特性・ルール理解と指導法（1）
7	球技	バドミントンにおける特性・ルール理解と指導法（2）
8	陸上競技	走り高跳びにおける種目特性の理解と指導法
9	陸上競技	砲丸投げにおける種目特性の理解と指導法
10	陸上競技	長距離走における種目特性の理解と指導法
11	球技	サッカーにおける特性・ルール理解と指導法（1）
12	球技	サッカーにおける特性・ルール理解と指導法（2）
13	格技	柔道における特性の理解と指導法（1）
14	格技	柔道における特性の理解と指導法（2）
15	まとめ	授業全体のまとめをする

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著（杏林書院）『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）『選手とコーチのトレーニングマニュアル』ブルーノ・ボーレット著『中学校学習指導要領解説（体育編）』（明治図書）

《授業時間外学習》

予習方法は、下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等で確認し、あらかじめ指導計画案を作成することによって指導方法に対してより理解が深まりかつ指導内容が広がる。復習方法は、学んだ内容を配付資料等により再確認しノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の指導者としてふさわしい能力を体得しよう。

科目名	健康・体力づくり指導法 I		科目ナンバリング	H1DX23023	
担当者氏名	朽木 勤				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）</li> <li>○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）</li> <li>○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）</li> <li>○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）</li> <li>◎ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）</li> </ul>				

《授業の概要》

運動を効果的に指導するためには、目的に応じて運動の量と質について適切に設定しなければならない。特に生活習慣病の予防や改善のための運動プログラムは、個別に身体的・心理的特性も考慮し、適した内容、実施可能で継続できるものでなければならぬ。

演習では、様々な条件下で、安全でかつ効果的な健康のための運動プログラムを作成するための手段を学んでいく。

《授業の到達目標》

この演習では、健康づくりや生活習慣病の予防や治療に関わる運動について説明でき、日常生活における身体活動や運動による健康づくりを目的とした、ライフスタイルや各年代に応じた安全で効果的な運動プログラムを作成することが出来る。

《成績評価の方法》

演習中に行う確認テスト(30%)と課題レポート(10%)、実技テスト(20%)、最終確認試験(40%)により評価する。確認テストにより生じる課題レポートは提出期限を守ること。期限後に提出されたレポートは評価対象外とする。わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」健康体力づくり事業財団（南江堂）2016年、「健康運動指導士養成講習会テキスト」健康体力づくり事業財団（社会保険研究所）2016年

《参考図書》

「ライフスタイル療法<1>第4版生活習慣改善のための行動療法」,足達淑子（医歯薬出版）、「標準的な健診・保健指導プログラム（社会保険出版社）」、「特定健診・特定保健指導の手引き」（社会保険出版社）、「ACSM 健康にかかわる体力の測定と評価—その有意義な活用を旨として」,アメリカスポーツ医学会（市村出版）

《授業時間外学習》

毎時間、確認テストを行う。確認テスト不合格の場合はレポート課題を課す。専門用語について、事前に各自で意味を理解しておくこと。

《備考》

定期の授業時間以外に学外実習（水中運動）を行う（日時未定）。健康運動実践指導者・健康運動指導士認定試験の受験予定者は必ずテキストを購入すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習を始めるにあたり	健康増進や疾病治療のための運動の在り方について理解する
2	健康づくり運動と運動プログラム（1）	健康づくりのための身体活動基準2013、身体活動指針2013について理解する
3	健康づくり運動と運動プログラム（2）	健康づくりのためのトレーニングの原則を理解する
4	健康づくり運動と運動プログラム（3）	健康づくりのための運動プログラム作成のポイントと基礎を理解する
5	健康づくり運動と運動プログラム（4）	ウォームアップとクーリングダウンについて理解する
6	健康づくり運動と運動プログラム（5）	有酸素運動とその効果を理解する
7	健康づくり運動と運動プログラム（6）	レジスタンス運動について理解する
8	健康づくり運動の理論	加齢に伴う体力の低下と運動について理解する
9	運動プログラムの実際（1）	運動プログラム作成の基本を理解する
10	運動プログラムの実際（2）	健診結果の読み方を理解する
11	運動プログラムの実際（3）	生活習慣病に対する運動療法プログラム作成（包括的プログラム）を理解する
12	運動プログラムの実際（4）	生活習慣病に対する運動療法プログラム作成（肥満・高血糖）を理解する
13	運動プログラムの実際（5）	生活習慣病に対する運動療法プログラム作成（高血圧・脂質異常症）を理解する
14	運動プログラムの実際（6）	生活習慣病に対する運動療法プログラム作成（ロコモティブシンドローム）を理解する
15	総括	これまで学習してきた内容と演習を通じて得られた知見を再確認するとともに、具体的な成果を説明することが出来る

科目名	健康・体力づくり指導法Ⅱ		科目ナンバリング	H1DX23024	
担当者氏名	朽木 勤				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ） ◎ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

各種の有酸素性運動やレジスタンス運動を実践することによって、それぞれの運動の特性や効果について理解を深めるとともに、指導上の留意点、問題点を考える。また、健康づくり運動に加え、生活習慣病に対する運動療法としての基本的な理論を学習するとともに、それぞれの目的に応じた運動プログラムの作成や実践していくための手段について検討する。

《授業の到達目標》

健康・体力づくりのための運動指導を行うためには、運動の特性や理論を理解することに加えて、専門的な能力・知識やその遂行能力だけでなく、適切なコミュニケーション能力も必要とされる。「健康・体力づくり指導法Ⅰ」に引き続いて本演習では、健康を維持増進するための適切な運動の基本理論に基づいて、運動プログラムを作成し、具体的な方法を説明できるようにする。また互いに指導者としての課題を指摘する。

《成績評価の方法》

演習中に行う確認テスト(30%)と課題レポート(10%)、実技テスト(20%)、最終確認試験(40%)により評価する。確認テストにより生じる課題レポートは提出期限を守ること。期限後に提出されたレポートは評価対象外とする。わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習を始めるにあたり	健康増進や疾病治療のための運動の在り方について理解する
2	有酸素性運動の理論と実際 (1)	エアロビックダンスの特性と理論について理解する
3	有酸素性運動の理論と実際 (2)	エアロビックダンスの指導の要点と実際(1)
4	有酸素性運動の理論と実際 (3)	エアロビックダンスの指導の要点と実際(2)
5	有酸素性運動の理論と実際 (4)	水泳・水中運動の特性と理論について理解する
6	有酸素性運動の理論と実際 (5)	水泳・水中運動の指導の要点と実際(1)
7	有酸素性運動の理論と実際 (6)	水泳・水中運動の指導の要点と実際(2)
8	有酸素性運動の理論と実際 (7)	ウォーキング・ジョギングの特性と理論について理解する
9	有酸素性運動の理論と実際 (8)	ウォーキング・ジョギングの指導の要点と実際
10	疾病の予防・治療のための運動プログラム(1)	生活習慣病に対する運動処方と処方プログラムの作成 (1) (虚血性心疾患)
11	疾病の予防・治療のための運動プログラム(2)	生活習慣病に対する運動処方と処方プログラムの作成 (2) (腰痛症・変形性関節症)
12	疾病の予防・治療のための運動プログラム(3)	生活習慣病に対する運動処方と処方プログラムの作成 (3) (軽度認知障害・認知症)
13	健康づくり運動の実際	ストレッチングの理論と実際について理解する
14	運動プログラム作成の理論	運動プログラム作成上の原則について説明することが出来る
15	総括 (最終確認試験)	これまで学習してきた内容と演習を通じて得られた知見を再確認するとともに、具体的な成果を説明することが出来る

《テキスト》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」健康体力づくり事業財団（南江堂）2016年、「健康運動指導士養成講習会テキスト」健康体力づくり事業財団（社会保険研究所）2016年

《参考図書》

「健康運動指導士試験攻略トレーニング問題集—テキスト平成26~28年対応」、「改訂2版 健康運動実践指導者試験 筆記対策分野別&模擬問題集」、「メタボ検定Q&A100」（日本フィットネス協会）、「運動処方の指針」（南江堂）

《授業時間外学習》

指定された課題を提出する。また、運動指導プログラムが実演できるように各自で練習しておくこと。

《備考》

時間以外に学外実習を行う予定である。この演習は特に健康運動実践指導者の認定試験を受験する学生を対象としている。健康体力づくり指導法Ⅰを受講しておくことが望まれる。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動処方論		科目ナンバリング	H1CX23025	
担当者氏名	長尾 憲樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力）</li> <li>◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）</li> <li>○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）</li> <li>○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）</li> </ul>			

《授業の概要》

運動処方と運動指導は、どの様に違いがあるのでしょうか。人間を対象として健康の維持・増進を目指す運動処方を推し進めていくために、知らねばならない点を深く考えます。

《テキスト》

特に定めません。

《参考図書》

健康運動実践指導者養成用テキスト、健康運動指導士養成用テキスト：財団法人健康・体力づくり事業団

《授業の到達目標》

運動・スポーツに関する科目を学んできました。その知識を再考しながら、生きた智恵を構築します。

《授業時間外学習》

日常における生活を通して、様々なタイプの人の観察をして下さい。

《成績評価の方法》

定期試験70%  
レポート30%  
毎回提出する出席兼用のペーパーに、質問に対する解答を記述します。その理解度を考えて、次の講義に必ず反映させます。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	運動処方とは？	運動処方の概念について考えます。
2	体組成	今一度、体組成について考えます。
3	心肺持久力Ⅰ	健常人について考えます。
4	心肺持久力Ⅱ	生活習慣病予防との関連を考えます。
5	心肺持久力Ⅲ	介護予防との関連を考えます。
6	筋力と筋持久力Ⅰ	健常人について考えます。
7	筋力と筋持久力Ⅱ	介護予防との関連を考えます。
8	柔軟性	基準になる評価方法を考えます。
9	生活関連体力	通常の体力テストでは、評価できない能力を考えます。
10	個別運動処方Ⅰ	自分自身を知っていますか。
11	個別運動処方Ⅱ	家族、友人の何を知っていますか。
12	高地トレーニング	高地トレーニングの実際について学びます。
13	低酸素トレーニング	低酸素トレーニングの可能性について考えます。
14	防災体力運動処方Ⅰ	自己の防災体力を考えます。
15	防災体力運動処方Ⅱ	家族の防災体力を考えます。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動処方演習		科目ナンバリング	H1CX23026
担当者氏名	長尾 憲樹			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）			

《授業の概要》

人間を対象として健康の維持・増進を目指す運動処方を押し進めていくために、I期の運動処方論を受けて実際に可能な運動処方の各要素の演習を行う。

《テキスト》

特に定めない。

《参考図書》

健康運動実践指導者養成用テキスト、健康運動指導士養成用テキスト：財団法人健康・体力づくり事業団

《授業の到達目標》

これまでの講義、実習を受けてきたことの復習から、発展させて演習を進める。既存の知識をこえる。

《授業時間外学習》

その時間内で終了しない内容は個人的に、あるいは履修学生間の協力のもとに追加データを得ることが必要となる。

《成績評価の方法》

演習レポート70%  
 レポートのプレゼンテーション30%  
 毎回提出する出席兼用のペーパーに、質問に対する解答を記述します。その理解度を考えて、次の講義に必ず反映させます。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	運動演習とは？	演習の可能性について考えてみる。
2	健康関連体力テストⅠ	形態計測・評価
3	健康関連体力テストⅡ	体組成の測定・評価
4	健康関連体力テストⅢ	心肺持久力の測定・評価
5	健康関連体力テストⅣ	筋力と筋持久力の測定・評価
6	健康関連体力テストⅤ	柔軟性の測定・評価
7	生活関連体力テスト	各種生活関連体力の測定・評価
8	個別運動処方Ⅰ	自己に対する運動処方
9	個別運動処方Ⅱ	友人に対する運動処方
10	50歳からの筋力トレーニングⅠ	アメリカ合衆国の書籍より考えます。
11	50歳からの筋力トレーニングⅡ	日本との比較を試みます。
12	小野教授の指導者論Ⅰ	指導者の有り方を学びます。
13	小野教授の指導者論Ⅱ	自己の指導者としての資質を考えます。
14	防災体力Ⅰ	避難のための体力測定・評価
15	防災体力Ⅱ	家族・災害弱者を支援する体力測定・評価

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動負荷試験実習		科目ナンバリング	H1DX23027	
担当者氏名	大西 祥男、山名 祥太				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）				

《授業の概要》

運動負荷試験は、心疾患の診断ならびに薬効評価、心臓リハビリテーションの効果判定など臨床の場でその有用性は確立されている。また、保健指導のなかの運動療法も発症予防の取り組みとして極めて重要である。個々の背景に配慮した運動負荷試験・運動療法を実施することが大切であり、本実習では指導対象者の運動や身体活動に関する準備状態に配慮した運動負荷試験が設定、実施できることを目標とする。

《テキスト》

健康運動指導士 養成講習会テキスト（下）：公益財団法人健康・体力づくり事業財団

《参考図書》

《授業の到達目標》

1. 運動負荷試験の目的・適応・禁忌が説明できる 2. 運動負荷試験の種類とプロトコールとそれらの違いについて説明できる 3. 安全に運動負荷試験を実施する上での注意点と中止基準について説明できる 4. 運動負荷試験の評価方法について説明できる 5. 指導者と共に症例に対して運動負荷試験を実施し、要約を作成できる

《授業時間外学習》

・上記テキストの第12章 運動負荷試験（815～834頁）は予習しておくこと。  
 ・心電図の基本については、復習しておくこと。

《成績評価の方法》

到達目標の1～4については試験、5については、レポート作成とする。配点は試験40点、レポート60点、100点満点とし、60点以上を合格とする。なお、レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	運動の生理	運動による生理反応、血圧、脈拍の変化について理解する。
2	運動負荷試験の目的・適応・禁忌	運動負荷試験の目的・適応・禁忌について理解する。
3	運動負荷試験の危険性・安全対策	運動負荷試験の危険性・安全対策について理解する。
4	運動負荷心電図診断とその判定基準①	STT変化をはじめ判定基準ならびに中止基準を理解する。
5	運動負荷心電図診断とその判定基準②	STT変化をはじめ判定基準ならびに中止基準を理解する。
6	運動負荷試験各論①	運動負荷の様式について説明できる。
7	運動負荷試験各論② マスター2段階試験	マスター2段階試験法について実施・判定方法を理解する。
8	運動負荷試験各論③ 自転車エルゴメーター	自転車エルゴメーター法について実施・判定方法を理解する。
9	運動負荷試験各論④ トレッドミルテスト	トレッドミルテストについて実施・判定方法を理解する。
10	運動負荷試験各論⑤ ホルター心電図	ホルター心電図を用いた運動負荷試験について実施・判定方法を理解する。
11	症例検討①	運動負荷試験実施症例についての負荷試験を中心に症例検討。
12	症例検討②	運動負荷試験実施症例についての負荷試験を中心に症例検討。
13	呼気ガス分析を用いた運動処方	CPXを用いた運動処方を作成する。
14	呼気ガス分析を用いた運動処方に基づく運動療法	CPXを用いて作成した運動処方に基づき運動療法を実施する。
15	症例検討③	CPXを用いた運動処方実施症例の運動療法の実施、そしてその効果について検討する。

科目名	レクリエーション（野外活動を含む）	科目ナンバリング	H1DX23028
担当者氏名	樽本 つぐみ		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ◎ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）		

《授業の概要》

現在のレクリエーションは、スポーツと文化活動を包含する幅の広い自由時間の過ごし方として生涯学習と同様なものとなっている。そこでレクリエーションの果たす役割について理解し、活動（イベント）を通して参加者の意欲を引き出し、魅力のある活動や運営の仕方を学ぶ。また、市民を対象に事業を展開することで実践力を養う。本講義は、保健体育免許必修科目である。

《授業の到達目標》

- (1)レクリエーション支援が、子どもから高齢者まで多様な活動の機会を提供するための働きかけであることを理解する。
- (2)ニュースポーツを中心に実践方法を習得する。(3)オリジナリティのあるレクリエーションを考え、実践する。(4)学外での事業を展開し実践力を養う。(5)実習後のレポートを作成し発表する。

《成績評価の方法》

(1)(4)(5)についてはレポート提出、(2)(3)(4)は発表の内容、イベントの様子で評価する。評価の割合は、レポート50%、発表30%、テスト20%とし100点満点で60点以上を合格とする。レポートにコメントを付して返却する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

「やさしいレクリエーション実践」川村皓章（日本レクリエーション協会）  
 「野外活動テキスト」（日本野外教育研究会）  
 「レクリエーション支援の基礎～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～」（レクリエーション協会）

《授業時間外学習》

- ①授業終了時に次回のプリントを配付するので読んでおくこと。
- ②レクリエーションに関する課題について新聞や雑誌の記事を切り抜き要点をまとめて提出し発表する。
- ③学外での事業展開、集中講義でレクリエーション指導をする。

《備考》

15回の授業とは別に、7月か8月に小学生から高齢者を対象とした行事を実施する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の流れを説明する
2	レクリエーションの基礎理論	レクリエーションの基礎的な知識や歴史を理解する
3	レクリエーション支援の理論	レクリエーション支援の展開と方法、特色について理解する
4	レクリエーション支援者の役割	コミュニケーションワークについて理解する
5	レクリエーション組織の経営論（1）	クラブの設立や運営について理解する
6	レクリエーション組織の経営論（2）	市区町村とレクリエーション指導者の関係と課題について理解する
7	コミュニケーションワーク（1）	ホスピタリティ・トレーニング(小学生から高齢者まで)
8	コミュニケーションワーク（2）	アイスブレイキング(小学生から高齢者まで)
9	レクリエーションサービス論（1）	行事の成り立ちを理解し企画する
10	レクリエーションサービス論（2）	準備、運営、スタッフの役割について流れを計画する
11	レクリエーションサービス論（3）	事故を起こさないための安全管理について理解し計画する
12	ニュースポーツの理解（1）	ニュースポーツについて理解し実践する
13	ニュースポーツの理解（2）	ニュースポーツの指導ポイントを学ぶ
14	まとめ	発表会（1）
15	まとめ	発表会（2）

科目名	薬理学	科目ナンバリング	H2XB23002
担当者氏名	多田 章夫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）		

《授業の概要》

本講義を通じて、医療の現場で実際に繁用されている治療薬を中心に、それらの薬理作用、薬効発現機序、適応症および副作用について具体的に解説する。医薬品の有効性や期先生を認識し、最善の薬物治療における最低限の薬の知識を習得する。

《テキスト》

Qシリーズ新薬理学改定第6版

《参考図書》

《授業の到達目標》

- 1 代表的な疾患について、治療に用いられる医薬品を列挙できる。
- 2 代表的な治療薬について、効果を発揮する仕組みを説明できる。またその副作用を列挙できる。
- 3 代表的な医薬品副作用や薬物の為害作用を理解できる。

《授業時間外学習》

各授業の予習・復習を行い、その概要を理解する。

《成績評価の方法》

定期試験100%。  
私語等授業の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行なった者は、出席取り消しもしくは減点の対象となる。  
分らないことは、授業中に質問を受け付ける。

《備考》

本科目は教員免許必須科目であるため、最低限のマナーを遵守でき、可能な限り欠席のない学生の履修が望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	薬に関する基礎知識	処方薬と一般用薬の違いなど医薬品の定義。薬に関する基礎的知識を習得する。
2	薬物体内動態	消化管（主に小腸）での吸収、肝臓での代謝、循環血液から組織への分布、腎臓から尿中への排泄、薬物の投与方法と血中濃度を理解する。
3	薬物効果の機序	薬の標的物質（薬物受容体）、作動薬・拮抗薬の概念、薬の治療域、薬の投与経路とその特徴を理解する。
4	薬物の副作用・中毒	薬物相互作用の機序や、病態時に特徴的に起こる副作用の発生機序とその対策についての知識を習得する。
5	抗感染症薬	病原微生物の種類を修得し、抗生物質、抗真菌薬、抗ウイルス薬、消毒薬の作用機序を理解する。
6	抗がん薬	癌の生物学および各種抗がん薬の作用機序を理解する。
7	免疫抑制薬と免疫増強薬	免疫反応の仕組みおよび免疫抑制薬、免疫増強薬、ワクチンの作用機序を理解する。
8	抗アレルギー薬と抗炎症薬	アレルギー反応と炎症の病態増および抗アレルギー薬、抗炎症薬、気管支喘息治療薬の作用機序を理解する。
9	自律神経薬	末梢神経系の神経伝達物質とその受容体および交感神経作用薬や副交感神経作用薬の作用機序を理解する。
10	筋弛緩薬と麻酔薬	筋弛緩薬、局所麻酔薬、全身麻酔薬の作用機序を理解する。
11	脳・神経系に作用する薬物	中枢神経系の神経伝達物質の異常による疾患を修得し、催眠薬と抗不安薬、抗てんかん薬、神経変性疾患に対する薬、抗精神病薬、抗うつ薬の作用機序を理解する。
12	心臓・血管系に作用する薬物	抗高血圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬の作用機序を理解する。
13	内分泌機能の異常に対する薬	糖尿病治療薬や甲状腺疾患治療薬の作用機序を理解する。
14	眼、耳、皮膚などの疾患に対する薬物	眼、耳、皮膚の外用薬の作用機序を理解する。
15	入門薬物と依存性薬物	入門薬物（タバコ、酒）や依存性薬物（麻薬、覚せい剤）の為害作用について理解する。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	養護活動演習		科目ナンバリング	H2DX23005
担当者氏名	加藤 和代			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力）</li> <li>○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力）</li> <li>◎ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）</li> <li>○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）</li> <li>○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）</li> </ul>			

《授業の概要》

「学校保健Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「養護概説ⅠⅡ」で習得した知見や技術をもとに、養護教諭が行う実践活動を、グループワークを通して実践場面を構成して展開する。児童生徒の健康課題を解決するための養護活動の理論と実際の教育現場で行われる実践とを往還しながら技術を習得していく。

《テキスト》

必要に応じて自作プリントを配布する。

《参考図書》

教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応  
 文部科学省 少年写真新聞社  
 学校において予防すべき感染症の解説 日本学校保健会  
 児童生徒の健康診断マニュアル 日本学校保健会

《授業の到達目標》

- 児童生徒の発達段階や生活を理解した観察や関わりができる。
- 保健教育、保健管理を推進していくための養護教諭の役割や保健室の機能が説明できる。
- 演習を通して「養護とは」の考察と理解を深める。

《授業時間外学習》

演習で得た知見や資料を整理し、課題レポートに活かすこと。

《成績評価の方法》

グループワークの発表（50%）レポート（50%）で評価する。  
 レポートは評価コメントを加えて返却する。

《備考》

アクティブラーニングゾーンを利用することもある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の基本的な視点、授業の概要、学習の動機付け、評価等の説明
2	養護と教育機能	養護教諭の職務と役割、求められる専門的能力、養護活動とは養護教諭の教育実践活動
3	健康実態把握 (1) 健康診断から	保健調査の活用と管理、健康診断実施計画書の作成・実施・評価
4	健康実態把握 (2) 健康診断事後措置から	統計処理（ソフトの活用）の実際、事後措置の実際、健康新結果の活用
5	健康実態把握 (3) 健康観察から	健康観察簿の作成、事後措置、欠席管理、感染症対応（臨時休業、出席停止等）
6	健康実態把握 (4) 救急処置から	救急処置簿の作成、事後措置、データ分析（外科的、内科的、メンタルヘルス）
7	健康実態把握 (5) 健康実態調査から	生活習慣（睡眠時間、就寝時刻、朝食摂取等）や心の健康状態の実態調査
8	健康課題の明確化	実態の分析・考察、課題の明確化、校内組織で課題の共有、共通理解、組織対応
9	養護教諭の活動計画 (1)	学校保健安全計画、校内組織、役割分担
10	養護教諭の活動計画 (2)	保健室経営計画、健康課題の把握、課題解決への具体的な取り組み PDCAサイクル
11	養護活動実践 (1)	保健管理、健康相談に伴う個別保健指導及び教育的支援、学級担任との連携
12	養護活動実践 (2)	保健教育（保健学習、保健指導）における指導実践及び教育的支援、学級担任との連携
13	養護活動実践 (3)	児童生徒保健委員会活動、児童生徒会活動での教育的支援
14	養護活動実践 (4)	学校全体で進める健康教育の働きかけ、学校保健委員会、PTA活動・地域との連携
15	保健室、養護教諭の教育的役割	「養護とは」「児童生徒の養護をつかさどるとは」 教育的役割のまとめ

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	養護活動実習	科目ナンバリング	H2XD23006
担当者氏名	加藤 和代、大平 曜子、米野 吉則		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）		

《授業の概要》

これまでに修得した保健室の機能と養護教諭の教育的役割を基盤に、実践的な養護教諭の活動の理解を学内実習をとおして深める。

《テキスト》

指定テキストなし

《参考図書》

授業の中で、適宜紹介する

《授業の到達目標》

- 養護教諭の行う保健管理、保健教育の活動の実際を学内実習をとおして体得する。
- 児童生徒一人ひとりを大切にしたい支援について理解し、校内体制、家庭や専門機関と連携について、養護教諭の活動を説明できる。

《授業時間外学習》

これまでに得た知識技術を確認・整理し、主体的にその研鑽に励むとともに、配布資料を確認し、授業内容の予習と復習を欠かさず行う。

《成績評価の方法》

小テスト(50%)、レポート(50%)で評価する。レポートは、発表する機会をつくり、コメントを返す。

《備考》

養護活動演習の履修を終えていること。通年科目であり、評価は4年生I期の修了後に行う。実習科目であるため、出席はもちろんのこと、主体的に取り組む姿勢を重視する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	養護とは 養護教諭の教育活動
2	保健室経営（1）	保健室経営案、保健室備品、諸帳簿の保管・管理、個人情報の管理の実際
3	保健室経営（2）	感染予防の基本技術 ① (機器、器具、寝具、衛生材料の確認と使用技術)
4	保健室経営（3）	感染予防の基本技術 ② (汚物等の清潔操作、滅菌・消毒の実際)
5	健康診断の計画・運営・事後措置（1）	発育測定、視力・聴力検査、心電図検査の実際、
6	健康診断の計画・運営・事後措置（2）	歯科、眼科、耳鼻科等の専門医検診の実際
7	健康診断の計画・運営・事後措置（3）	内科検診の実際
8	健康診断の計画・運営・事後措置（4）	事後措置の実際
9	保健室来室者の対応（1）	外科的救急処置と事後処置、保健指導 ① 骨折、捻挫、打撲、切傷、擦過傷
10	保健室来室者の対応（2）	外科的救急処置と事後処置、保健指導 ② 頭部外傷、眼科・耳鼻科・歯科関係のけが
11	保健室来室者の対応（3）	内科的救急処置と事後措置、保健指導 ① 腹痛、頭痛、発熱、
12	保健室来室者の対応（4）	内科的救急処置と事後措置、保健指導 ② 熱中症、急性虫垂炎、喘息、アレルギー（アナフィラキシー）
13	保健室来室者の対応（5）	健康相談的対応と継続支援 ① 繰り返す腹痛、不登校
14	保健室来室者の対応（6）	健康相談的対応と継続支援 ② 長期にわたる微熱、不安、不眠、食欲不振
15	まとめ	保健室の機能と養護教諭の教育活動、

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	精神保健	科目ナンバリング	H2BC23010
担当者氏名	柳井 由美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力）</li> <li>○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）</li> <li>○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）</li> <li>◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）</li> </ul>		

《授業の概要》

運動、あるいは養護や保健の専門家として、幼児から高齢者まで、発達段階に応じた心の健康・心の問題について正しく理解する。次に、心の病的状態についても精神医学的観点から学習し、予防方法を考えることによって心の健康の保持、増進について理解を深める。

《テキスト》

精神看護学 I 精神保健学 第6版

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神保健の理論を理解しそれを実践することの重要性を説明できる。

《授業時間外学習》

今回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を整理し理解しておくこと。

《成績評価の方法》

筆記試験70%、平常評価30%(レポート、受講態度など)  
分からないことは随時質問を受け付ける。  
授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《備考》

現在のようなストレスフルな社会において、医療関係者や専門家といわれる人々だけでなく、すべての人が精神保健についての知識を持ち健やかな生活を営まれることが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神の健康	精神保健とは？、精神障害の一次・二次・三次予防
2	精神の健康	精神力動論、フロイト・エリクソンの発達論
3	精神の健康	自我機能（防衛機制）、集団力動論、危機管理
4	精神保健と社会	家族家庭の精神保健
5	精神保健と社会	学校と精神保健
6	精神保健と社会	職場における精神保健
7	精神保健と社会	社会資源の活用とケアマネジメント、社会復帰（精神科リハビリテーション）
8	精神保健と社会	災害時地域精神保健医療活動
9	精神保健医療福祉の歴史と法制度	精神保健医療福祉の歴史
10	精神保健医療福祉の歴史と法制度	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
11	精神保健医療福祉の歴史と法制度	精神保健医療福祉に関する法制度
12	精神科チーム医療	クリニカルパス、SDM（シェアード・デシジョンメイキング）
13	社会とメンタルヘルス	様々な社会病理現象（危険ドラッグ、ギャンブル依存症、周産期のメンタルヘルス）
14	社会とメンタルヘルス	様々な社会病理現象（自殺、PTSD、宗教体験など）
15	総括	精神保健の総括

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	健康相談活動の理論と実践		科目ナンバリング	H2XC23013
担当者氏名	大平 曜子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）</li> <li>◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）</li> <li>○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）</li> <li>○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）</li> <li>○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）</li> </ul>			

《授業の概要》

学校教育における健康相談の概念や特質を理解し、子どものヘルスニーズに対処できる力量形成を目指す。また、人間観や健康観、対人関係など健康相談活動の基礎的理論を学び実践力をつける。養護教諭の仕事における健康相談活動の位置づけを理解するとともに、関係機関との有機的連携について学習する。授業では、健康相談活動の目標と方法、問題の捉え方、記録とプライバシー保護など、基礎から実際までを学ぶ。

《授業の到達目標》

- 健康相談活動の概念や役割について説明できる。
- 健康相談活動の基礎的理論について理解し、説明できる。
- 子どものヘルスニーズがわかり、健康相談活動の進め方がわかる。
- 健康相談活動の実際を体験的に理解する。ロールプレイングができる。

《成績評価の方法》

毎授業終了時記入の学習内容の記録についての評価 10%、  
課題の実践とレポート提出 30%、  
定期試験 60%とする。  
到達目標に対して、全体に講評をおこない、個別の質問については随時対応する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。健康相談の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	養護教諭と健康相談	養護教諭のもつ健康感や人間観との関わり
3	法規と健康相談	学校保健安全法を中心に、健康相談の位置づけを理解する。
4	健康相談活動の概念	定義、目的と意義
5	健康相談活動の対象	子どものヘルスニーズの理解、問題理解
6	健康相談活動に必要な力量	養護教諭の力量形成と資質
7	近接領域の相談と健康相談活動の違い	相談とは、臨床心理学とは、教育相談や生活指導、などとの関係
8	健康相談活動の実際 (1)	進め方の実際、保健室の機能
9	健康相談活動の実際 (2)	事例の学習、健康相談活動のプロセス保健室登校・特別支援教育と養護教諭のかかわり
10	健康相談活動の実際 (3)	ロールプレイングによる健康相談活動の実際
11	健康相談活動の実際 (4)	グループ学習（演習）により課題を抽出
12	記録と保管	記録の方法、書式、保管と活用
13	幼児・児童・生徒への健康相談活動	支援方法の違いと実際
14	力量形成と研究	養護教諭にとって、健康相談に関する研究の意味と方法を理解する
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《テキスト》

テキストは使用しない。  
必要に応じて適宜プリントを配布する。

《参考図書》

『養護教諭の行う健康相談活動』大谷・森田編著、東山書房  
『養護教諭の健康相談ハンドブック』森田著、東山書房  
『健康相談活動の理論と実際』三木・森田編著、ぎょうせい  
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

関係図書にはできるだけ目を通す。課題レポートについては、文献にあたった上で作成する。授業で配布したプリントには、必ず目を通しておく。

《備考》

養護教諭をめざす人は、目的意識を持ち、主体的に授業に臨んで欲しい。演習時は、特に主体的に参加することが望まれる。また、演習には必ずレポート課題の提出を求める。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	救急看護（救急処置を含む）		科目ナンバリング	H2BB13018
担当者氏名	米野 吉則			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力）</li> <li>○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力）</li> <li>○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力）</li> <li>◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）</li> <li>○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）</li> </ul>			

《授業の概要》

教育活動やスポーツ活動においては、予期せぬ発病や事故や外傷が起こる。その初期対応や処置の仕方、対応の良否はその後の経過に影響する。授業は複数の担当者によるオムニバス形式で進めていく。受講者は、救急処置に必要な知識と技術を習得することを目的とする。また、具体的な場面を想定した救急処置の実践的能力を身につけ、教師としての専門性に生かせるよう主体的に取り組むことが求められる。

《授業の到達目標》

- ・救急看護の概念と基礎知識を理解し説明できる。
- ・心肺蘇生法を実施できる。
- ・災害救護活動について理解し、災害時の健康障害について解説できる。
- ・基本的な救急処置が実施できる(救急処置の範囲がわかる)。
- ・傷病者の状態のアセスメントの方法を理解し、説明できる。

《成績評価の方法》

各担当出題による最終試験50%  
 演習後のレポート30%(レポートにはコメントを記入し返却する)  
 救急法実技20%(実技は評価とコメントを記入し返却する)

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

- ・「救急看護論」山勢博彰編著、ヌーヴェルヒロカワ
- ・「初心者のためのフィジカルアセスメント-救急保健管理と保健指導-」荒木田美香子他 東山書房
- ・「スポーツ指導者のためのスポーツ外傷・障害」市川宣恭 南江堂

《授業時間外学習》

2回目以降はシラバスにより授業時のテーマや内容を把握し、事前に必ず予習し、質問を準備しておくことと良い。復習についても最低限、毎授業内容を見返しておくことを求める。また医療の側面理解のため、人体の構造と機能について繰り返し復習すること。技術の確認や科学的理解のために、実習室を利用して、積極的に練習する。

《備考》

教員免許取得の必須科目である。また4・5・8～14週目の9回は衛生管理者資格に対応している。演習が中心であるため、出席はもちろんのこと、主体的に取り組む姿勢を求める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法などについての説明する。救急看護の考え方や専門性、日本の救急医療体制について理解する。
2	救急法の理論	心肺蘇生法や救急法(異物除去、R I C E)の実施方法を説明することができる。
3	救急法実習	心肺蘇生法とA E D使用の方法を理解する。
4	救急法実技テスト	心肺蘇生法とA E D使用の技術を習得する。
5	整形外科的障害	整形外科的障害(突き指、骨折、捻挫、頭部外傷など)の救急処置と基本について理解する。
6	内科的障害	内科的障害(胸痛、腹痛、熱中症、過換気症候群など)の救急処置と基本について理解する。
7	小児救急①	子どもの心肺蘇生の方法や子どもに多い事故と傷病について理解する。
8	小児救急②	子どもの症状別の救急処置や食物アレルギーの対応について理解する。
9	基本的応急処置	傷病者の観察と基本的応急処置法(止血法、包帯法、搬送法)の実施方法について理解する。
10	災害看護トリアージ	災害の定義、災害発生時の現代的課題、災害看護とトリアージについて理解する。
11	学校救急①	学校事故の特徴、救急処置の教育的意義、学校管理下での死亡事故・障害・負傷について説明することができる。
12	学校救急②	学校における救急処置、救急処置における体制づくりについて説明することができる。
13	学校救急の事例検討①	学校現場で起こりうる救急処置を事例をもとに、教員に傷病者への処置や学校で行う救急処置の範囲、学校救急体制についての理解を深め、説明できる。
14	学校救急の事例検討②	学校現場で起こりうる救急処置を事例をもとに、教員に傷病者への処置や学校で行う救急処置の範囲、学校救急体制についての理解を深め、説明できる。
15	まとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育史	科目ナンバリング	HTAL53003		
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本授業では、「教育」の関わる範囲を学校教育や社会教育だけでなく、子どもの遊び、子育て、大人と子どもの関係、海外留学など、広くとらえ、みなさんが日ごろ読んでいる本の中に教育史に関わる題材があふれていることをおさえる。

具体的には、受講生は日ごろ読んでいる本の中から、教育史的内容を含むものを1冊以上選び（例は「参考図書」欄を参照）、その本の中の教育史的内容と考察を順次口頭で発表する。

《授業の到達目標》

誤った歴史教育が「歴史＝無味乾燥な暗記物」というイメージを生んでしまったのは残念であるが、本来歴史とはそういうものではない。本授業では、みなさんに暗記してもらうことは一つもない。その代わりに(1)教育史に関する文献探索能力を身につけ、(2)教育史について自分で問いを設定して考察する方法を修得し、(3)その内容を発表する能力を身につけることが、本授業の目的である。

《成績評価の方法》

提出物(30%)と、発表への評価(70%)による。ただし、大学教育の基本である「個に応じた指導」の原則に基づき、変更することがある。

成績評価への質問は、可能な限り随時受け付ける。なお担当教員のメールアドレスは、okamoto@hyogo-dai.ac.jpである。

《テキスト》

とくに定めない。

《参考図書》

妹尾河童『少年H』、さくらももこ『まる子だった』、黒柳徹子『窓際のトットちゃん』、司馬遼太郎『竜馬がゆく』、ヘッセ『車輪の下』、サンテグジュペリ『星の王子さま』、童門冬二『上杉鷹山』、乙武洋匡『五体不満足』、ほか。

《授業時間外学習》

自力で文献を読むことは言うまでもないが、その他は必要に応じて指示する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2	発表文献選定のための個別指導(1)	文献リスト作り等
3	発表文献選定のための個別指導(2)	発表内容の詰め等
4	口頭発表(1)	文献例:妹尾河童『少年H』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
5	口頭発表(2)	文献例:さくらももこ『まる子だった』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
6	口頭発表(3)	文献例:黒柳徹子『窓際のトットちゃん』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
7	口頭発表(4)	文献例:司馬遼太郎『竜馬がゆく』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
8	口頭発表(5)	文献例:H・ヘッセ『車輪の下』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
9	口頭発表(6)	文献例:A・サンテグジュペリ『星の王子さま』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
10	口頭発表(7)	文献例:童門冬二『上杉鷹山』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
11	口頭発表(8)	文献例:乙武洋匡『五体不満足』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
12	口頭発表(9)	文献例:E・ケストナー『エミールと探偵たち』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
13	口頭発表(10)	文献例:東上高志『教育革命』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
14	口頭発表(11)	文献例:三好京三『子育てごっこ』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。
15	口頭発表(12)	文献例:李潤福『ユンボギの日記』 ※アクティブ・ラーニング・ゾーンで授業を行う予定である。

《教職に関する科目》

科目名	保健・保健体育科教育法Ⅱ（保健教育法研究）		科目ナンバリング	HTHH43002	
担当者氏名	棟方 百熊				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

保健科教育について、学習指導要領、保健科教育研究や実践の分析・検討を通して考察し、その目標、方法、評価等について発展的な理解を深める。

《テキスト》

中学教科書「新 中学保健体育」学習研究社、高校教科書「現代高等保健体育 改訂版」大修館書店、中学校学習指導要領解説「保健体育」、高等学校学習指導要領解説「体育・保健体育」

《参考図書》

森昭三他「新保健の授業づくり入門」大修館書店 他  
講義の際に適宜示します。

《授業の到達目標》

保健科教育の目標、内容、方法、評価についての今日的課題を説明できる。保健科教育の目標、内容、方法、評価について、学習指導要領、保健科教育研究や実践を分析・検討できる。

《授業時間外学習》

前時の学習内容の復習をするとともに、前時に示された次時の内容を予習しておきましょう。  
特に、以下の事項に関して、受講者同士で協力して実践することを強く推奨します。

- (1) 授業中に示された課題を検討する
- (2) 学習指導要領等の資料を読み込む

《成績評価の方法》

- (1) 小課題への取り組み (40%)
- (2) 最終課題 (60%)

の2点を基本とする。

小課題に関しては、提出されたものにコメントを付して返却する。

《備考》

行事等により時間割の変更が有り得ますので、通知等には常に留意してください。受講生の状況により、アクティブラーニング的に授業を行うことがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション及び保健科教育の歴史	オリエンテーション（授業計画、評価の確認） 保健科教育の変遷、保健科授業経験の検討
2	保健科における学力と保健科教育	保健科の学力と教育による学力の育成・向上に関する検討
3	保健科教育内容の検討（中学校）	中学校学習指導要領及び解説の検討
4	保健科教育内容の検討（高等学校）	高等学校学習指導要領及び解説の検討
5	保健科教育の教授 - 学習過程の検討	保健科教育の教授 - 学習過程の分析
6	保健教科書の分析（中学校）	中学校保健教科書内容の分析
7	保健教科書の分析（高等学校 単元1）	高等学校保健教科書の分析（現代社会と健康）
8	保健教科書の分析（高等学校 単元2・3）	高等学校保健教科書の分析（生涯を通じる健康、社会生活と健康）
9	保健科教育の教材論	保健科教育教材の分析
10	保健科教育の教材づくり（計画）	保健科教育教材づくり（計画から作成）
11	保健科教育の教材づくり（作成）	保健科教育教材づくり（作成から評価）
12	保健科教育の評価	保健科教育の評価とその今日的課題
13	保健科教育における評価の観点と評価の方法	保健科教育における評価の4観点と適切な評価方法に関する検討
14	保健科教育における具体的評価	保健科教育における観点別評価に適した評価方法の適用
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知見の再確認

《教職に関する科目》

科目名	保健科教育法Ⅱ（保健科教育法演習）		科目ナンバリング	HTHH43004
担当者氏名	棟方 百熊			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
		履修カルテ参照		
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力				

《授業の概要》

保健の授業では、健康に関する基礎的な内容の理解、現代的健康課題への対応、実践力の育成、学習方法の工夫等が求められている。それらをふまえて、教材研究、授業計画の作成、模擬授業の実践、カンファレンス、模擬授業改善を行う。これらを通じて保健の授業づくりの力を高める。

《テキスト》

中学教科書「新 中学保健体育」学習研究社、高校教科書「現代高等保健体育 改訂版」大修館書店、中学校学習指導要領解説「保健体育」、高等学校学習指導要領解説「体育・保健体育」。

《参考図書》

森昭三他「新保健の授業づくり入門」大修館書店 他  
講義の際に適宜示します。

《授業の到達目標》

保健の授業計画の立案、指導案の作成ができる。学生を児童・生徒にみため、模擬授業ができる。模擬授業を批評し、そのよかつた点、改善すべき点に関する意見を述べるができる。多様な観点からの修正意見に基づき、模擬授業を改善できる。

《授業時間外学習》

受講者同士で協力して以下の事項を実践することを強く推奨します。

- 学習指導要領の関連部分を読み込む。
- 教材研究を多角的に行う。
- 課題を明確に設定した自主的な模擬授業を数多く行う。
- 多様な意見を取り入れて積極的に改善に取り組む。

《成績評価の方法》

- (1) 授業計画・指導案の作成 (50%)
  - (2) カンファレンス等の活動への積極的な参加 (30%)
  - (3) レポート (20%)
- レポート等の提出されたものに関しては、基本的にコメントを付して返却する。

《備考》

行事等により時間割の変更が有り得ますので、通知等には常に留意してください。受講生の状況により、アクティブラーニング的に授業を行うことがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション テーマの決定	オリエンテーション（授業計画、評価の確認） 個別のテーマ及び単元計画の検討
2	保健学習の計画立案1	単元計画の立案（目標と内容）
3	保健学習の計画立案2	単元計画の立案（方法と評価）
4	保健学習の計画立案3	学習指導案の作成と改善（目標と内容）
5	保健学習の計画立案4	学習指導案の作成と改善（方法と評価）
6	保健学習の計画立案5	保健科教育の教材づくり（計画と作成）
7	保健学習の計画立案6	保健科教育の教材づくり（運用と改善）
8	保健学習の計画立案7	授業実践の技術的側面（話法と板書）
9	保健学習の計画立案8	授業実践の技術的側面（活動のマネージメント）
10	模擬授業の実施とカンファレンス1	授業内容と目標の達成
11	模擬授業の実施とカンファレンス2	授業内容のメリハリと時間配分
12	模擬授業の実施とカンファレンス3	教師としての態度、板書と配布資料
13	模擬授業の実施とカンファレンス4	生徒の活動のマネージメント
14	模擬授業の実施とカンファレンス5	総合的な授業の評価方法
15	まとめ	個別の力量の評価と課題の整理

《教職に関する科目》

科目名	保健体育科教育法Ⅱ（保健体育科教育法研究）		科目ナンバリング	HTHH43006	
担当者氏名	後藤 幸弘				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

「学習指導要領解説（保健体育編）」を理解するとともに、教科内容（体育分野）を理解する。特に、教育内容を押さえた「的確な判断に基づく行動力の育成」のできる先生になる力を習得する。換言すれば、高い専門性に基づき教育現場での教科指導法について創意工夫できる力を養う。

《テキスト》

後藤幸弘編著「内容学と架橋する保健体育科教育論」晃洋書房  
 文部科学省「中学校学習指導要領解説（保健体育編）」  
 文部科学省「高等学校学習指導要領解説（保健体育編）」

《参考図書》

宇土正彦（監修）「学校体育授業事典」大修館書店  
 日本体育学会（監修）「最新スポーツ科学事典」平凡社

《授業の到達目標》

保健体育科教育法Ⅰに引き続き、保健体育科成立の文化基盤である「身体運動文化」への興味・関心、認識・理解を深め、専門知識の習得及び中・高等学校保健体育科の授業担当者として求められる資質や実践的能力を身に付ける。

《授業時間外学習》

・ノートをまとめ復習する。また、次時の講義内容に当たるテキストの章を読んでおく。

《成績評価の方法》

・授業における討議への積極的参加（20%）、レポート（20%）及び試験（持ち込み不可）（60%）を総合的に評価する。  
 わからないことは、オフィスアワー等で受け付ける。

《備考》

・質問・連絡等があればメールでも受け付けます。  
 (ygoto@gaia.eonet.ne.jp)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・保健体育科について（体育授業の構造、目標、運動領域等） ・レポート：オリンピックについての調べ、そのまとめを第5週に提出する
2	教育内容	・普的教育内容について（技術、戦術、ルール、マナー、学びとり方の能力、他） ・技術・ルール・戦術の関係について
3	球技分類論	・球技のゲーム形式に基づく分類論と教育内容について ・バスの種類と機能について
4	球技の指導法①	・球技（攻防相乱型）の学習指導法について（課題ゲームを通して）
5	球技の指導法②	・球技（攻防分離型）の学習指導法について（課題ゲームを通して） ・レポート（課題ゲームを作成する、次週に提出）*論文を配布する
6	スポーツと国際理解	・オリンピック教育について
7	球技の指導法③	・作成した課題ゲームの検討 *相撲についての資料集を配布する（次週までに読んでおく）
8	武道の指導①	・日本の伝統文化を体育においてどう指導するか？ ・日本の国技は？
9	武道の指導②	・武道（相撲、柔道）の学習指導について
10	体づくり運動①	・体づくり運動の5つの普的な教育内容 ・体力について
11	体づくり運動②	・トレーニングの原則と各種のトレーニング法について
12	体づくり運動③	・腕立て伏臥腕屈伸運動の負荷量を考える ・繰り返し回数から祭壇筋力を推定する
13	体づくり運動④	・ストレッチングについて ・主観的運動強度（RPE）について
14	保健体育科の授業の今日的課題	・保健体育科の授業の今日的課題とその解決策について
15	試験問題の検討・まとめ	・作成した試験問題の検討を通して講義のまとめを行う

《教職に関する科目》

科目名	道徳教育論	科目ナンバリング	HTAL43007
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

道徳教育の目的と特質、意義と課題を理解し、教科指導をはじめとする学校教育のさまざまな活動とのかかわりを考察する。学習指導案の作成と模擬授業を通じて、道徳の授業の進め方を習得し実践的指導力を獲得する。

《テキスト》

柳沼 良太『子どもが考え、議論する 問題解決型の道徳授業事例集 中学校』図書文化社、2016

《参考図書》

・御前 充司・宮崎 正康・藤井 英之『中学生に道徳力をつける—授業ですぐ使える新資料35選』明治図書出版、2007年  
 ・石丸憲一『ルーブリック評価を取り入れた道徳科授業のアクティブラーニング』明治図書出版、2016  
 ・木野正一郎『新発想！道徳のアクティブラーニング型授業はこれだ』みくに出版、2016

《授業の到達目標》

- 道徳教育の意義と課題について理解している。
- 道徳性の発達について理解している。
- 年間指導計画と全体計画を作成できる。
- アクティブラーニングを取り入れた、考える道徳の指導案を作成することができる。
- 指導案に基づいて授業を実施することができる。
- 特別の教科道徳の評価の基本を理解している

《授業時間外学習》

配布した資料をよく読み、予習をしておくこと。  
 課題(指導案の作成、模擬授業の準備)をグループの全員で協力して行うこと。

《成績評価の方法》

- ①受講態度(ディスカッションやグループワークへの参加度、発表回数等) 30%
  - ②課題の提出と完成度 35%
  - ③模擬授業 35%
- ※提出物はコメントを付して返却する。

《備考》

教育実習における道徳の授業にも対応できるよう、指導案の作成と模擬授業に真摯に取り組むこと。  
 アクティブラーニングゾーンで授業を行うこともある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 道徳とは何か	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・道徳とは何か
2	道徳教育の必要性 道徳教育の歴史	・道徳教育とは、道徳の必要性 ・戦前の道徳教育/戦後の道徳教育
3	道徳性の発達	・道徳性とは ・道徳性の発達理論と道徳教育
4	学校教育における道徳教育の意義と位置づけ	・教育の目的・目標と道徳教育、学習指導要領における道徳教育 ・他の教育活動との関連、道徳的実践の指導
5	道徳教育の計画と評価	・年間指導計画と全体計画の意義/作成の手順と作成上の留意点 ・特別の教科道徳の評価のポイント
6	道徳教育の授業理論	・道徳教育の授業理論の概要 ・道徳科の授業のさまざまな例
7	道徳教育とアクティブラーニング	・道徳におけるアクティブラーニングの意義 ・アクティブラーニングによる道徳科授業の留意点
8	指導案の作成	・テーマの設定と適切な教材の選定 ・指導案の作成の手順とポイント
9	模擬授業と相互評価①	・グループごとに指導案を作成して模擬授業を行い、相互評価することにより、道徳の授業の基本を習得する。改善案を話し合い、よりよい授業を完成する。
10	模擬授業と相互評価②	・グループごとに指導案を作成して模擬授業を行い、相互評価することにより、道徳の授業の基本を習得する。改善案を話し合い、よりよい授業を完成する。
11	模擬授業と相互評価③	・グループごとに指導案を作成して模擬授業を行い、相互評価することにより、道徳の授業の基本を習得する。改善案を話し合い、よりよい授業を完成する。
12	模擬授業と相互評価④	・グループごとに指導案を作成して模擬授業を行い、相互評価することにより、道徳の授業の基本を習得する。改善案を話し合い、よりよい授業を完成する。
13	模擬授業と相互評価⑤	・グループごとに指導案を作成して模擬授業を行い、相互評価することにより、道徳の授業の基本を習得する。改善案を話し合い、よりよい授業を完成する。
14	模擬授業と相互評価⑥	・グループごとに指導案を作成して模擬授業を行い、相互評価することにより、道徳の授業の基本を習得する。改善案を話し合い、よりよい授業を完成する。
15	学習のまとめと振り返り	全体を振り返り、学習のまとめをするとともに自身の課題を明らかにする。

《教職に関する科目》

科目名	進路指導論		科目ナンバリング	HTHH43007	
担当者氏名	古川 雅文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

進路指導は、中学校および高等学校の教員が担任として必ず行わなければならないものである。最近ではキャリア教育として、より広く、系統的な展開が目ざされている。

この授業では、進路指導とキャリア教育について、学校教員として備えておくべき基礎的な知識を学習する。また、背景になっている理論と実践例の両方を学ぶことで、進路指導とキャリア教育をより深く理解する。

《授業の到達目標》

- ・進路指導の意義、目的、内容、方法について説明できる。
- ・キャリア教育の意義、目的、内容、方法について説明できる。
- ・進路指導とキャリア教育の関係を説明できる。
- ・学校において、教員としてどのように進路指導及びキャリア教育に取り組むかを構想できる。

《成績評価の方法》

(1)定期試験(60%)、(2)レポート(20%)、(3)その他(提出物、プレゼンなど)(20%)。100点満点で、60点以上を合格とする。  
※レポート等にはコメントを付して返却する。

《テキスト》

『キーワード キャリア教育 一生涯にわたる生き方教育の理解と実践』小泉令三・古川雅文・西山久子(編)、北大路書房、2016

《参考図書》

『中学校 キャリア教育の手引き』文部科学省(編)、教育出版、平成23年

『高等学校 キャリア教育の手引き』文部科学省(編)、教育出版、平成24年

『その幸運は偶然ではないんです!』J.D. クランボルツ他(著)、花田光世他(訳)、ダイヤモンド社、2005年

《授業時間外学習》

1. 予習の方法:教科書の指定箇所、あらかじめ配布する資料などを読んでおくこと。
2. 復習の方法:授業内容を再確認し、不明な点は質問したり自分で調べること。

《備考》

欠席や遅刻・早退が多い場合(5回以上)は不合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	進路指導の意義と内容	進路指導は何のために行うのか、そして、その内容にはどのような領域があるかについて理解する。
2	進路指導・キャリア教育の歴史と社会的背景	進路指導の歴史の変遷、キャリア教育の登場した社会的背景と考え方の変遷について理解する。また、現在の進路指導とキャリア教育の関係について理解する。
3	キャリア教育の意義と内容	キャリア教育の意義と内容について理解し、説明することができる。
4	進路指導・キャリア教育の理論1	進路指導やキャリア教育の基礎理論の一つである特性因子論について理解する。
5	進路指導・キャリア教育の理論2	進路指導やキャリア教育の基礎理論の一つであるキャリア発達理論について理解する。
6	進路指導・キャリア教育の理論3	進路指導やキャリア教育の基礎理論の一つである学習理論等について理解する。
7	教育課程と進路指導・キャリア教育	学校教育の中で、どのようにキャリア教育を行っていくか、教育課程との関係を理解する。
8	進路指導・キャリア教育の方法と技術	特にキャリア教育の方法的特色を理解し、具体的な教育方法について説明できる。
9	小学校におけるキャリア教育実践	小学校でのキャリア教育の実践例を参照し、その特色を理解する。
10	中学校におけるキャリア教育実践	中学校でのキャリア教育の実践例を参照し、その特色を理解する。
11	高等学校等におけるキャリア教育実践	高等学校および特別支援学校でのキャリア教育の実践例を参照し、その特色を理解する。
12	進路相談・キャリアカウンセリングの基礎	学校で行われる進路相談とキャリアカウンセリングについて、その基礎理論と方法的特色を理解する。
13	進路指導・キャリア教育の組織と推進	進路指導とキャリア教育を学校で推進していくための組織と、推進方法について理解する。
14	進路指導・キャリア教育の評価	主にキャリア教育における評価方法について理解する。
15	諸外国におけるキャリア教育	アメリカ、ドイツ、フランスなどのキャリア教育について理解し、わが国のキャリア教育との違いを説明できる。

《教職に関する科目》

科目名	中学校教育実習（事前・事後指導）		科目ナンバリング	HTHH43008	
担当者氏名	大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠席は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価（教育実習成績報告書）における「総合評価」（20％）教育実習記録（実習ノート）（40％）事前事後指導における発表・課題提出（40％）。質問等は各教員のオフィスアワー時に受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施（指導案の作成、教材作成）
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『（各教科等の）学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<予習方法>兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容時によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。<復習方法>学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない（介護等体験は終了済のこと）。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての、覚と誇りをもって臨むこと。

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習（事前・事後指導）		科目ナンバリング	HTHH43009	
担当者氏名	大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠席は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価（教育実習成績報告書）における「総合評価」（20％）教育実習記録（実習ノート）（40％）事前事後指導における発表・課題提出（40％）。質問等は各教員のオフィスアワー時に受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち、せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施（指導案の作成、教材作成）
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の、己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の、己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『（各教科等の）学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<予習方法>兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容時によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。<復習方法>学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない（介護等体験は終了済のこと）。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての、覚と誇りをもって臨むこと。

《教職に関する科目》

科目名	養護実習（事前・事後指導）	科目ナンバリング	HTY043001
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代、米野 吉則		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

養護実習は、これまでの専門知識や理論、技術や感性を、実践の場で展開していく、教職免許取得において重要な実習です。養護教諭の専門とする職務内容と、教師として知っておくべき事柄を再確認し、実習目的および各自の目標を明確に定め、実習校に赴く準備の期間です。そのため、事前指導（本時）では、知識技術の習得のみならず教員としての心構えも含めて省察し準備に当たることが求められます。

《授業の到達目標》

- 養護実習の手引の目標を理解し、自らの目標に反映できる。
- 養護教諭にとって必要な知識技術がわかり、その修得状況が確認できる。
- 定めた実習目標を達成すべく取り組むべき課題がわかりまた、適切な対処行動がとれる。
- 実習の過程全体を見通し、計画的に準備を進めることができる。

《成績評価の方法》

やむを得ない場合を除き、欠席はいつさい認めません。事前指導（事後指導）での課題提出(40%)、発表・レポート（実習報告会を含む）(60%)、100点満点で60点以上を合格とする。到達目標に対する全体の講評をおこない、個別の質問に随時応じる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	養護実習に向けて、心構えと注意点、勉強の進む方、実習と採用試験
2	養護実習内容について	教育職員に関する事、学校教育に関する事、学校保健の考え方、進め方に関する事
3	養護教諭について	養護教諭とは、保健室とは、保健室経営の仕方、保健室における対応の仕方、記録の方法
4	学校環境衛生	日常学校環境衛生検査、測定の実際
5	健康診断	定期健康診断の考え方、進め方、測定・検査の実際
6	保健指導	保健学習と保健指導、保健指導の指導案作成（課題の提示）
7	保健だより	保健だよりの意味と役割、校種別保健だよりの作成
8	学校事故の対応	学校事故と対応の仕方、記録の仕方
9	模擬授業	保健指導の実際（6週目の課題報告）
10	実習要項の確認	実習の手引きと日誌の配布、実習要項の確認と実習日誌の記入方法
11	実習手続き	実習手続きの確認、関係文書の作成
12	実習準備	実習校のための保健指導の指導案作成と、そのための資料収集など
13	実習準備	職務の点検
14	実習準備	職務の点検
15	実習準備	職務の点検

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科作成の「養護実習の手引き」

《参考図書》

『新養護概説』 采女智津江編 少年写真新聞社  
『児童・生徒の健康診断マニュアル』日本学校保健会、第一法規  
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

実習に向けて文献を参考に知識の確認と定着をはかる。基礎的技術の確認は、各自で実習室を有効に利用して行う。実習期間中の生活時間帯を想定して、規則正しい生活習慣を確立しておく。

《備考》

養護実習に向けた事前・事後指導1単位分に相当することを認識し、また、実習本番に向けて、各自が出来る限りの準備を行う。主体的参加と、自主的学習を要する。